

# こどもデイサービスファーストフレンド北筑 支援プログラム

作成年月日 令和6年11月15日

## 事業所理念

保護者、利用者、職員みんなで支えあい楽しく笑顔で過ごす

### ・支援方針

保護者、利用者のニーズに応じた支援を行う。職員、利用児童がいつも笑顔で楽しんでもらえるような環境づくりを行う。

また、支援については様々な視点から提供する中でその児童に合う方法を見つけて支援していきます。

『好き、得意な事を伸ばし苦手を少しずつ遊びの中で克服』していくようにしています。

得意な事がもっとできる、褒められると自己肯定感が上がりやる気が上がります。

ストレングス(得意な事、好きな事)を伸ばす支援を行います。

### ・営業時間、送迎実施の有無

営業時間:9:00～18:00 送迎あり

## ・発達(本人)支援の内容と5領域の関連性

発達段階	第一段階	第二段階	第三段階	第四段階	第五段階
<b>【健康・生活】</b> 1.健康状態の維持・改善 2.生活リズムや生活習慣の形成 3.基本的な生活スキルの獲得	意思表示が困難な子供の健康状態把握のために、きめ細かな観察を行う。食事、衣類の着脱、排泄等に関するする支援。	生活全般にわたって動作補助が必要な子供への支援。日常生活を営まれるように補助、介助を行う。	日常生活や社会生活を営むために、それぞれの子どもに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。	基本的な生活習慣と健康的な生活を送るために、自ら意識した行動がとれるようになるために支援。	より質の高い日常生活や社会生活のスキルを高めるための支援を行う。健康的な生活を作り出す支援。
<b>【運動・感覚】</b> 1.姿勢と運動・動作の向上 2.姿勢と運動・動作の補助的手段の活用 3.保有する感覚の総合的な活用	座位や立位などの基本的な姿勢が取れない子供に対しては、様々な補助用具などの補助的手段を活用して支援する。	感覚の過敏や鈍麻のある子どもに対しては、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。	日常生活に必要な動作の基本となる上肢、下肢の運動、動作の改善及び習得、筋力の維持・強化を図る。	視覚、聴覚、触覚等の感覚を動きの中で十分に活用できるように、適時運動療法を行って支援していく。	基本的な動きと合わせて身体全体の巧緻性を高めていくために、リズム体操やバランス運動、軽スポーツを行う。
<b>【認知・行動】</b> 1.認知の発達と行動の習得 2.空間・時間、数等の概念形成の習得 3.対象や外部環境の適切な行動の習得	認知能力の発達が極端に劣っている子に対しては対象物をしっかり見ることから始めて、その子に合った的確な支援を行うことで発達を促す。	認知に偏りがある場合は、認知の特性を踏まえて、自分に入ってくる情報を適切に処理できるように支援する。こだわりに対する支援を行う。	感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生じる行動障害の予防のための支援。外部環境の適切な認知と適切な行動の習得。	数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用して必要な情報を収集するための支援	物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手がかりとして活用する支援

発達段階	第一段階	第二段階	第三段階	第四段階	第五段階
<p><b>【言語・コミュニケーション】</b>  1.言語の形成と活用  2.言語の需要及び表出  3.コミュニケーションの基礎的能力の向上</p>	<p>発語がない子どもに対しては、指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるように支援する。</p>	<p>相手の意図は理解できるが、言語による表出が不明瞭な子供に対しては、正確な発言の支援を行う。</p>	<p>会話はできるが、自閉的な子どもに対しては、共同注意の獲得などを含めたコミュニケーション能力の支援。</p>	<p>発達障害の子供など、障がいの特性に応じた読み書き能力の向上、さらに相手との潤滑な会話能力の支援を行う。</p>	<p>環境の理解と、相手の障がい特性や心理状態を考えた上で、言葉での表出ができるための支援。</p>
<p><b>【人間関係・社会性】</b>  1.他社との関わり（人間関係）の形成  2.自己の理解と行動の調整  3.仲間づくりと集団への参加</p>	<p>人間関係作りの第一歩として、人との関係を意識して身近な人と親密な関係を築き、周囲の人と安定した関係を形成するための支援。</p>	<p>周囲に子どもがいても無関心で一人遊びの状態か並行遊びを行い、共同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。</p>	<p>遊び等を通じて人の動きを模範する事により、社会性や対人関係の芽生えを支援する。ごっこ遊び等の象徴遊びを行う。</p>	<p>感覚能力を使った遊びや運動機能を働かせる遊びを複数人で役割分担してルールを守って遊ぶことができる支援。</p>	<p>自分の行動の特徴を理解するとともに、集団に参加するための手順やルールを理解し、集団活動に参加できるように支援する。</p>
<p><b>【インクルージョンの推進】</b>  ※地域の児童館や市民センター、公園等で地域住民や子供たちとの交流を図る。</p>	<p>発語がなく、自分の意思が伝えられない子供については、指導員が横について地域住民や子どもたちと触れ合いの場を設定して、できる範囲の関わりを作っていく。</p>	<p>相手が言っていることは理解できるが言語が不明瞭で意思を伝えにくい子どもについては、意思伝達の為の支援を行い、他者との関わりを深めていく。</p>	<p>会話はできるが、自閉的な子どもに対しては、物理的に配慮された場面において他者に対する注意を向けるための支援を行っていくことで、交流を促す。</p>	<p>積極的に他社や他集団との交流ができるように、環境を整え、交流するためのルールやマナーを指導、支援していくことができる自発的行動を促していくようにする。</p>	<p>積極的に他者や他集団との交流ができるように、環境を整え、交流するためのルールやマナーを指導、支援していくことで自発的行動を促していくようにする。</p>

## ・家族支援

- 最低半年に1回面談(モニタリング)を保護者との面談を行う。
- その都度事業所、保護者から支援について等の要望があった場合は送迎時又は時間を作り対応していく。
- 家庭での様子、事業所での様子を送迎時などに伝え日々情報交換、情報共有し、適切な支援ができるようにし職員間でも共有する。
- 事業所で行ったペアレントトレーニング、遊びをお伝えして子供とのふれあいの時間を作るサポートし良好な親子関係を作ってもらおう。

## ・移行支援

インクルージョンを推進する観点から同世代の子どもとの仲間づくりなどの移行支援を行う。  
他事業所と交流を行い、レクリエーションやイベントの開催を行う。  
また、学校の先生と支援方法や困っている事の情報交換を起こい一貫性のある支援を行う。

## ・地域支援・地域連帯

地域のイベント行事等があれば参加をして地域支援を行う。  
また、事業所でもイベントなどを考え地域の方と連携をとっていくように進めていく。  
近くの公園では事業所以外の子供たちと交流を行っている。その中でかかわり方についての支援を行いながらより良い人間関係の作り方などを身につけるようにする。

## ・職員の質の向上に質する取組

- 指定されている研修、訓練、委員会については年間計画を作成して取り組んでいる。
- 事業所内研修を行い日々知識、支援力向上に励んでいる。
- 案内があった中から必要に応じた物をピックアップし各職員が受けてその後職員間で共有を行う。
- 各自受けた研修などがあれば受けてその後は職員に共有して向上心を持って支援に励む。

## ・主な行事等

### 事業所内行事

- 節分
- ハロウィンイベント
- クリスマスパーティー

### 事業所外行事

- 初詣
- 夏の川遊びでの水辺の生き物とのふれあい体験
- お買い物体験
- ファミリーレストラン等での食事体験
- クッキング
- バス、電車、モノレールなどの乗車体験
- 動植物とのふれあい体験
- 消防署、警察署、博物館、工場見学などの見学体験
- 他事業所とのレクリエーション等